

少し不気味な花火大会 帰りに自販機で

俺は闇の中にいた。

ある種陰鬱なうっそうとした心の茂みの中であった。

しかしそこは利点として気楽であった。

そんなある日近くの公園で花火大会があった。

入り口の門の前でスーパーマンが待ち構えていた。

複数人の腰をかがめた友人たちと一緒に線香花火を楽しんだ。

公園の隅に5メートルくらいの大人間が4人、腕を組んで見守っていた。

体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました。